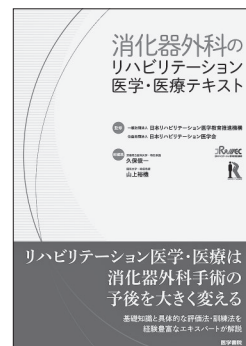




消化器外科のリハビリテーション 医学・医療テキスト



評者 水間 正澄 医療法人社団輝生会理事長

◆ 知識を整理し、治療の現場に生かす

リハビリテーション医療は、回復期リハビリテーション病棟の制度化を機に急速に広がりを見せてきた。しかし、急性期病院でのリハビリテーション医療提供体制は十分とはいえず課題とされてきた。診療報酬においても急性期での早期リハビリテーション治療を促す改定がなされ、がん医療では「がん患者リハビリテーション料」が認められ、その要件としての研修事業によって全国の急性期病院におけるがん患者の外科手術後のリハビリテーション医療の普及が図られてきた。近年は急性期治療後の速やかな在宅復帰が一層重視され、入院における早期かつ集中的なリハビリテーション医療提供体制の充実に期待が寄せられている。

このような現状において、本書の刊行は消化器外科領域における術後の速やかな在宅復帰をめざした早期からのリハビリテーション医療の充実という課題解決に向けて時宜を得たものであるといえる。

本書では、リハビリテーション医学・医療の最新の知見から始まり、外科手術の術前術後にリハビリテーション医学・医療がかかわるべき内容をさまざまな側面からわかりやすく解説されている。消化器外科の先生方には術前および術後早期からのリハビリテーション医療がなぜ必要で、どのような効果をもたらすのか

が理解いただけるであろう。さらには、周術期以降の回復期そして在宅生活に向けたリハビリテーション医療の取り組みも取り上げられており、回復期のリハビリテーション医療機関との連携や退院後の診療などにも役に立つ内容も含まれている。

本書は、消化器外科患者のリハビリテーション治療に携わるリハビリテーション科医をはじめチームスタッフにとっては、消化器外科の概要と治療法の現状を知り、知識を整理し、治療の現場に生かすことができるであろう。代表的な消化器がん患者の術後リハビリテーションにおける重要なポイントが簡潔にまとめられており、消化器外科治療チームとリハビリテーション治療チームとが共有することにより、よりよいチーム医療の実践にもつながる。

本書を通して、消化器外科チームの医師やスタッフには、活動を育む医療であるリハビリテーション医療の幅広い役割とその効果について認識を深めていただきたい。リハビリテーション医療チームの医師やスタッフには、日々進歩する消化器外科の最新情報をもとに、術前および術後早期からのリハビリテーション医療がより安全かつ効果的に実践されることを願っている。

日本リハビリテーション医学教育推進機構（一般社団法人）、日本リハビリテーション医学会（公益社団法人）監修／久保 俊一、山上 裕機 総編集／安保 雅博、城戸 颯、酒井 良忠、篠田 裕介、田島 文博、西田 佳弘、三上 幸夫、美津島 隆 編
B5／308頁／2024年／定価4,950円（本体4,500円＋税10％）／ISBN978-4-260-05345-7／医学書院刊